

第29号 うつべ人権協ニュース



平成30年3月 発行
内部地区人権教育推進協議会

内部地区人権教育推進協議会は、「人が人として尊ばれ、住んでいてよかった 住んでみたいまち、うつべ」の実現をめざして、平成12年以来活動を続けています。

平成29年度の第28号以後に、内部地区、南部ブロックおよび四日市市で開催された人権に関する様々な事業の内容を皆様にお伝えするために、「人権協ニュース」（開催順に記載）を発行して各戸にお届けしますので、是非ご一読ください。

「お月見コンサート」で、バイオリン、ピアノ、サクソフォンによる 名曲の数々を満喫

満月間近の9月30日（土）18時から、内部東小学校体育館で「第12回お月見コンサート」が開かれ、ロマンティックな名曲の数々で秋の夕べのひと時を過ごしました。

出演はアンサンブル「ブランシュ」のみなさん。バイオリン、ピアノ、サクソフォンによる女性3人のグループで、2003年に結成以来三重県を中心に活動を続けています。各楽器の魅力を活かした演奏スタイルで、幅広い様々なジャンルの曲を演奏しています。



今回のプログラムはクラシックから始まり、TVドラマのメインテーマ、映画音楽、ハンガリーの民俗舞踊、童謡メドレー、歌謡曲まで、幅広い親しみやすい選曲で約250名の観客を魅了しました。

また舞台は竹、ススキ、真っ赤なヒガンバナで彩られ、リニューアルされたお月さまも幻想的で、目でも楽しめた素晴らしいコンサートとなりました。

「じんけんフェスタ2017」の開催

12月10日（日）四日市市文化会館にて、人権フェスタが盛大に開催されました。

人権週間記念講演会として、「違うから面白い、違わないから素晴らしい」と題して、演出家の宮本亜門氏にお話しいただきました。

元宝塚歌劇団の祖母と一緒に喫茶店を営む両親に育てられた亜門氏は、小学生の時に、人と一緒にやるのは難しいと感じはじめ、人と違う自分のことを責めていたそうです。

「ヒキガエルは蹴ったら丸くなる」と言われ、自分がいじめられるのではと断れず、カエルを蹴ってしまった自分を責めるようになりました。

中学生になると仏像が好きになり、精神世界の美しい世界に興味を持ち、自分みたいな人間が生きていてよいのか真剣に考えるようになり、それから引きこもりの生活を1年弱送るようになりました。医療受診することになりましたが、自分の話を一度も否定されず、一つの個性として認められたことで、学校へ行くことができ、気にしていたけど、自分が思うほど皆は気にしていないことが分かったそうです。

引きこもりの間、自分が感じたことを世に伝えたく、ミュージカルの演出家を目指すようになられたそうですが、最後に宮本さんから、『人間は全ての循環の中で生きていることを日々忘れがちで、不満ばかりが気になってしまうが、どんな人も素晴らしい』というメッセージをいただきました。ご自身の生い立ちや家族との葛藤なども話され、会場から拍手が鳴りやみませんでした。

また、各会場では、各地区・各団体からの取組みの紹介・展示・体験など「人権のひろば展」が行われており、たくさんの来場者で賑わっており、大盛況でした。



人権懇談会を開催しました

内部地区では、毎年10月から2月までの間、各町自治会の協力を得て、地区人権懇談会を開催しています。今年度は、森ヶ山、波木町第2・第3、東原町、泉町、北小松町、采女町中南部の6地区で人権懇談会を開催し、身近な人権問題について話し合いました。



昨年度に引き続き、四日市市人権センターの鈴木敏夫先生を講師としてお越しいただき、『気づきからできること～身近なことから「人権」について考えよう』というテーマで4～5名のグループに分かれ、絵を使って人権の視点からおかしいと思うことやよいと思うところを出し合いました。各グループで出された意見をもとに、四日市市における今日的な人権問題（高齢者や外国人の問題、いじめの現状など）について知ることができました。

漫画を使ってセリフを入れる活動では、男性が外で働き、女性が家事をするという先入観を参加者のほとんどの方がもっていることに気づくことができました。一方的な見方ではなく、多角的に物事をとらえていくことが、人権意識の向上につながると改めて知ることができました。テレビアニメのシーンでも毎回同じシーンを見ることで、一方的な視点が擦り込まれていくことも分かりました。



人権標語に言葉を入れていく活動では、それぞれの思いを大切にすることが正解であることと教えていただき、一人一人の感覚の違いを大切にすることが、他者を認めていくことであるとすべての参加者が実感できました。

短い時間でしたが、他の地区の方と自分の経験から考えを出し合い、コミュニケーションをとることで自分の人権感覚を磨く機会となりました。

今回の地区懇談会をきっかけに各自治会で「すみよい町内部」の実現に向けて、人権の視点で各自治会の取り組みをすすめていただきたいと思います。



内部地区文化祭の「人権啓発コーナー」で、人権啓発ポスターを展示

平成29年11月5日（日）内部小学校にて内部地区文化祭が開催されました。

人権啓発コーナーにおいて、例年通り内部地区の小中学生が制作した人権啓発ポスターを展示しました。

来場された多くの皆さんが、目を引くポスターに見入っていました。



アンケート協力も含め、人権について考える良い機会になったと思います。

そのポスターに書かれていた標語に「生れたあなたに贈りもの 人権」がありました。この標語あなたはどう思われますか。

南部ブロック人権ひろば：「人権作文」発表と「みんなでつながろうしあわせコンサート」の開催

1月28日（日）13時から、内部中学校において南部ブロック「人権ひろば」が開催されました。これは、内部・日永・河原田・塩浜・楠の5地区が交代で毎年開催しています。

第1部では、小・中学生の人権作文の発表があり、内部地区からは内部中学校3年生の平山奈那美さんが「LGBT」と題して、LGBTについて理解を深め、性別に男と女に当てはまらない「その他」を加えて、差別せずに認めることができる社会、LGBTの人が笑って公にすることができる社会を実現したいと発表されました。



作文発表をする 平山奈那美さん

第2部では、各地で様々な音楽活動を続けている 花れん&扇谷研人さんによる「みんなでつながろう しあわせコンサート」が行われました。

コンサートでは「世界に一つだけの花」、「ゆうはすの唄」や「フレディもしくは三教街・ロシア租界」などの歌が人権についてのトークを織り交ぜながら披露されました。また、世界人権宣言に謳われている30の人権が紹介され、「誰もがみな、生まれながらにして自由であり、平等です」等の人権に関わる様々な事柄についてのメッセージが示され、人権について理解が深まったコンサートでした。



人権センターでは人権に関する教材を用意しています。

人権センターは、人権意識を確立し、暮らしの中に人権が根付いた、人権文化にあふれた社会の実現に向けて、人権教育・啓発を推進するための施設です。

地域、学校、職場、ご家庭などで、人権について学ぶための教材として、啓発冊子の無償配布や、図書、ビデオ、DVD、パネルなどを貸し出しています。

啓発冊子無償配布

四日市市人権センター

検索

人権センターでは、様々な人権問題に関する啓発冊子や教材を作成しております。初級から中・上級編の冊子、また、各人権の項目別に基本分析をした、研修担当者・指導者の方にご活用いただける教材などを揃えております。

これらの冊子は、人権研修・啓発にご活用いただけるよう、ご希望の方に無償配布しています。お問い合わせ・ご相談は、四日市市人権センターへお尋ねください。(無償配布できる部数には限りがあります。在庫がなくなれば終了します。あらかじめご了承ください。)

一部HPより検索もいただけます。

四日市市人権センター 啓発冊子

検索

ビデオ・DVDの貸出

様々な人権問題を扱ったビデオ・DVDの貸出も無料で行っております。あわせてご利用ください。

本数	1回につき5本まで
期間	貸出及び返却日を含め15日以内
受付	開館日の9時～16時30分
申込方法	直接人権センターへお越しいただくか、電話にてお申込みください。 電話：(059) 354-8609
送付方法	直接人権センターへお越しいただくか、お近くの地区市民センターでお受け取りください。(ご自宅等への郵送は行っていません)

所蔵ビデオ・DVDはHPからも検索いただけます。(内容についても紹介してあります。)

四日市市人権センター ビデオ・DVD貸出

検索

お問い合わせ
ご相談はこちら！



四日市市人権センター

〒510-0085 四日市市諏訪町2番2号(総合会館7階)

電話/059-354-8609 FAX/059-354-8611

E-mail/ jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp